進路指導ジャーナル

発行　太高進路部
印刷　東京広告㈱

令和6年度入試　大学・大学校別現役合格者数

区分	大学名	人数
国立	北海道大	1
	弘前大	1
	東北大	13
	秋田大	1
	山形大	1
	茨城大	1
	筑波大	7
	宇都宮大	2
	群馬大	23
	埼玉大	11
	千葉大	6
	電気通信大	1
	東京大	2
	東京外大	1
	東京学芸大	4
	東京工業大	2
	横浜国立大	3
	新潟大	11
	金沢大	3
	山梨大	1
	信州大	2
	静岡大	1
	京都大	4
	大阪大	2
	神戸大	1
	和歌山大	1
小計		106
公立	秋田県立大	1
	前橋工科大	1
	高崎経大	10
	東京都立大	4
	横浜市立大	1
	長岡造形大	1
	福井県立大	1
	北九州市立大	1
小計		20

区分	大学名	人数
私立	国際医療福祉大	4
	獨協医大	4
	白鷗大	1
	共愛前橋国際大	1
	高崎健康福祉大	20
	群馬医療福祉大	1
	群馬パース大	2
	埼玉医大	1
	埼玉工大	3
	城西大	2
	獨協大	25
	日本工大	1
	文教大	23
	文京学院大	1
	尚美学園大	1
	日本薬大	4
	日本医療科学大	1
	淑徳大	2
	千葉工大	30
	青山学院大	12
	学習院大	10
	北里大	7
	杏林大	2
	慶応大	7
	工学院大	12
	国学院大	7
	国士舘大	6
	駒澤大	24
	芝浦工大	20
	順天堂大	2
	上智大	5
	昭和大	1
	成蹊大	10
	成城大	3
	専修大	21
	創価大	2

区分	大学名	人数
私立	大正大	1
	大東文化大	8
	玉川大	1
	中央大	34
	帝京大	2
	東海大	11
	東京経大	1
	東京電機大	13
	東京農大	5
	東京理大	39
	東邦大	2
	東洋大	41
	二松学舎大	1
	日本大	28
	日本体育大	1
	法政大	44
	星薬大	1
	明治大	55
	明治学院大	15
	立教大	17
	立正大	4
	早稲田大	25
	神奈川大	7
	洗足学園音楽大	1
	金沢工大	1
	名古屋学芸大	1
	京都産大	1
	同志社大	3
	立命館大	15
	関西大	4
	近畿大	3
	関西学院大	6
	岡山理大	2
小計		673
大学校	防衛医科大学校	1
小計		1
合計		800

「太高プライド」に基づく進路選択

校長　新部雅之

昨年度末の大学入試の結果がまとまりました。本校卒業生の具体的な成果につきましては、本紙面の別欄にてご報告させて頂いている通りですが、概して申し上げるならば、例年にも増して難関とされている大学への合格を果たした生徒が多かったと感じております。生徒の皆さんには日頃から「夢は大きく、志は高く！」と呼びかけるとともに、決して「第一希望は譲らない」との心構えを説いている立場からすると、多くの生徒が果敢に挑戦し、見事合格を果たしたことについて、誠に喜ばしいことであると考えています。これもひとえに、生徒の皆さん一人一人の懸命なる努力は勿論のこと、全くの手前味噌にはなりますが、本校教職員の手厚い教科・進路指導の賜であると感じているところです。

もちろん理想とする進路指導の大原則は、各自の学力等に応じた「個別最適」な進路実現を支援することにあるのは言うまでもありません。また単に大学合格のみを目的とした所謂「出口指導」は、本来の進路指導やキャリア教育の理念とは異なる部分があることは重々承知のうえですから、難関大学に合格することの全てが無条件に良いことと考えている訳ではありません。ただ一部には、毎年、某週刊誌に掲載される難関大学への合格者数の比較を以て、その高校の実績等を評価するような風潮もあるようです。

大学入試において、その難度は一般的に偏差値で表されています。ところで皆さんは、今までの学習の過程において、経済学の基礎である「価格の自動調節機能」という仕組みを学んで来たかと思います。つまり価格は需要と供給のバランスで決定されるという考え方です。大学の難度である偏差値（価格）は、その大学を希望する者（需要）が、入学定員（供給）に対して多ければ難度が高まります。さらに付け加えるならば、純粋に経済学的視点から物事を分析する際の大前提は、「人間は合理的であり、常に自らの〝利益〟を最大化するために最適な行動をとる」こととされています。つまり、これらの観点から考えると、難関大学の偏差値が高いのは受験生全体が自らの利益を最優先して追求した結果であり、あえて誤解を恐れずに申し上げるならば、極端な考え方とも思いますが、皆さんが難関大学に進学することは、「自らの将来において何かしらの利益をもたらすことの裏付けともなっている」との理屈もあります。

もちろん大学受験は単なる勝負事ではありませんし、また終身雇用が崩壊している現在の我が国においては、難関大学への合格が、直接皆さんの将来の利益、即ち生涯に渡る幸福を保証するような時代でもありません。ただ、先日の開校記念式典における記念講演において、同窓の先輩である橋本貢士医師の言葉「失敗の反対は、挑戦しないことである！」というメッセージは、多くの皆さんの心に強く響いたのではないでしょうか。

最後になりますが、偏差値とは大学から選抜される受験生側から見た難度です。ただ、ここで発想の転換も必要です。もはや「太高生が大学に選んでもらう」のではなく、志願する大学の「価値」が、皆さんが入学するに値するレベルかどうか？つまり「太高生が大学を選ぶ」ということです。優れた太高生を選ばない大学は不利益を被る。つまり大学側が損をするのではないのか？そのような意味で、皆さんは志望校を前にして決して臆することはありません。ぜひ強気に行きましょう！これが我々の目指すべき「太高プライド」に基づく進路選択であると考えています。

2024年度入試を終えて

前3学年担任　小野寺　徹

2024年度入試の全国および本校の様子を振り返ることで、今後の参考になればと願う。

1．大学入試の志願者数

全国では、大学入学共通テストの確定志願者数が491,914人（前年度比マイナス20,667人）で6年連続の減少となり、32年ぶりに500,000人を下回った。さらに全志願者数に占める現役生の割合が85・3％と過去最高で、既卒生等は5年連続の減少となった。昨今の大学入試においては各大学が定員を大きく減らしているわけではないものの、志願者数が減少しているため、レベルを選ばなければ昔に比べて合格しやすい入試になっていると言える。

しかし、本校の卒業生の受験結果を見てみると、志願者数が減ったからと言って決して難関大学への合格率が上がったというわけではない。それぞれの上位大学にはやはり依然として全国の猛者達が集い、競争を繰り広げた。それ相応の学力が受験生には求められており、むしろ早慶を中心とした私立大学の最難関大学では、合格率がそこまで高くなく苦戦した印象である。

2．進路状況

令和6年度入試を終えた本校卒業生の進路先の状況を数字で確認してみる。国公立大学への進学が117人（昨年度比マイナス9）、私立大学が118人（昨年度比プラス22）で、合計235人が4年制大学へ現役進学した。これは全体の87・7％を占めており、過去7年間で最多である。裏を返せば、現役で惜しくも合格を勝ち取れなかったか、あるいは合格していても第一志望ではなかったことで進学努力を継続するいわゆる浪人生の人数は、33人と過去7年間で最少であった。過去6ヵ年の平均では、毎年59・1人の生徒が浪人していることを考えると、やはり今回はとびきり現役での進学を選択した生徒が多かったことが窺える。それは結果的に私立大学への進学者がやや多かったことにもつながっている。

これには担任団として見ている限り、3つの要因があるように思う。

1つ目はやはり学習指導要領の改訂による、新入試を嫌う傾向だ。全国的に見るとこの傾向は強く、新しい科目名、異なる試験範囲、新しい「情報」という科目の追加等変更点が多く、心配の種になっていた。しかし、太田高校進路指導部としては、各担任とも共通認識を図り、「新学習指導要領を恐れすぎることなく、しっかり今までの努力を継続すれば、浪人しても必ず来年桜咲く」との声を掛け続けてきた。実際、浪人生に圧倒的不利となるような制度設計にはならないはずである（いや、なってはならない）。そのため、特に中上位層の生徒たちに関して言えば、臆せず浪人生という選択をした生徒も多かったように思う。

2つ目としては、実際に第一志望合格を果たすことができた生徒が多かったからかもしれない。確かに、国公立大合格者数（進学数ではない）は126人で、昨年の141人と比べると見劣りするが、難関10大学（東大・京大・東工・一橋・北海道・東北・名古屋・大阪・九州・神戸）＋国立大医学部医学科の合格者数は、25＋6人（昨年度22＋1人）と割と健闘している。このように、一人一人が満足できる結果を得られたことも、浪人を回避できた結果であると考えている。

そして3つ目には、併願先としての私立大学に無事合格し、そこへ納得して進学した生徒も多かった点が挙げられる。一つの指標としてのデータに過ぎないが、早稲田大・慶応大・明治大の合格総数は87人（昨年度59人）であった。また同時に、私立大学合格総数が673人（昨年度579人）という数字にも表れているように、滑り止めとして手堅く私大の志望校を選定できるよう、生徒と担任団との密な相談ができたことも要因として挙げておきたい。

3．在校生に伝えたいこと

成功していた生徒の特徴を4点挙げておく。①上位陣はいつも情報を共有し、共に難問に頭を悩ませ、そして刺激しあっていた。②学校に軸足を置き、課題や課外に一生懸命取り組み、あちこちに手を出さなかった。③入試制度や科目の配点・問題傾向など、各大学別の特徴を調べ尽くし、比較・吟味できた。④自分で必要なことはやりつつも、保護者が見守ってくれ協力してくれる家庭の生徒はやはり受験に強かった。

そして、現役合格とはならなかった生徒も、しっかり受験と向き合えていた生徒は、清々しい顔で浪人という選択をしてくれた。これからまだ彼らの挑戦は続いていくため、我々も応援し続けたい。

進路指導上での反省点を挙げればキリがないのだが、ひとつ確実に伝えたいこととしては、「判定はあくまでも目安である」ということだ。〝A判定〟でも落ちた生徒が何人もいた。生徒が自分の模試の成績に驕ってはならない（特に1・2年次のA判定での油断は禁物だ）のと同時に、教員も本当にその大学の傾向がその生徒に適していたのか、深く考察すべきだったのかもしれない。また一方で、〝E判定〟でも受かる生徒も一定数いた。信じて努力し続けた生徒が報われたときの喜びは何物にも代え難かった。これなら「あの別の生徒も志望校を下げなくてよかったのでは？」と思えてしまう瞬間もあったが、正直に言うと、担任も、家族も、生徒本人の強い意思なくして背中を押すことはできない。「本気でここに行きたい」と自信をもって挑戦できる気概が今の自分にあるか。あれば、きっと周りは背中を押してくれる。逆にそれがないのなら、やはり我々は志望校を下げるよう声を掛けることになっていたのだろう。ある生徒が3月に会いに来て、「あのとき先生が志望校下げるなって言ってくれたおかげで、今の合格がある」と涙ながらに言ってくれた。成功ばかりではないクラス運営だったが、一緒に頑張ってきてよかったと思えた瞬間だった。

3年間で本当に大きく成長していく太田高校生を間近で見ることができて、私も一緒に成長させてもらった。在校生の皆さんにも、自信をもって前進してほしい。

最後に、この3年間を生徒と一緒に乗り越えるにあたり、随所で助けてくださった多くの教科担当の先生方と、保護者の方々への感謝を表して、結びとしたい。

2024年度 大学受験アンケート

この春、太田高校での三年間の奮闘を終えた卒業生達が、心身共に逞しく成長し、新たなる道へと旅立った。この卒業生たちは、入学時当初より新型コロナによる影響で、学習や学校行事、部活動などあらゆる面で制約を受けた。しかし、感染防止の生活のなかでも、太高プライドを持ち、物事に対して自ら考え、工夫し、最大限に取り組んで成果を挙げた生徒たちであった。本校舎二階の廊下には、彼らの不断の努力の結果としての合格札が掲げられている。その合格札の裏には、苦悩や葛藤を抱えながらもたゆまぬ努力を重ねた者たちの軌跡が刻まれている。在校生の諸君にはそれらの札からにじむ先輩たちの姿を想像し、次は自分たちの番だと決意を新たにして、太田高校の伝統を引き継いでいって欲しいと願う。

卒業した先輩達の軌跡を後輩の在校生諸君にも活かしてもらうべく、このコーナーでは受験を戦い抜いたからこそ伝えられる先輩達の熱いメッセージをまとめてみた。特に多い回答には◎がついている。これからの勉強計画に活かすだけでなく、思い悩んだときの糧としてもぜひ活用してもらいたい。新たなる太田高校の伝統の1ページを、そして各々が納得のいく進路実現を果たすことを期待している。

①《志望校合格に向けてやってきたこと》
◎勉強（多数）
◎基礎固め（多数）
◎過去問を繰り返し解く。傾向をつかむ。赤本をしっかりやる（多数）
◎数学、英語の勉強
◎毎日勉強する習慣を身につける
◎早期から受験勉強を始める（多数）
◎ひたすら勉強（多数）
◎模試の結果を分析して、苦手な分野を克服する
◎時間管理、計画的な学習
◎大学について情報収集
◎先生に添削をしてもらう
◎隙間時間を有効に使う
◎苦手教科の克服
◎共通テスト対策
◎学校や塾の学習室を利用する
◎自分を信じる
◎最後まであきらめない
◎文法、単語を完璧にする
・規則正しい生活
・得意教科を作っておく
・英語を毎日聞く
・理科を重点的に勉強した
・面接・小論文練習
・リスニング対策を怠らない
・英文の音読を毎日する
・具体的な目標と課題を決めて1ヶ月単位で進めた
・質の良い睡眠
・全科目バランス良く勉強した
・定期考査の勉強
・学習室を利用して集中力を高めた
・情報収集
・継続的な勉強
・体調管理に気をつけた
・インプットとアウトプット
・学校に行く
・仲間と頑張る

②《太高の指導で役立ったことや効果があったもの》
◎授業（多数）
◎各教科からの課題（多数）
◎各教科の課外授業（多数）
◎習熟度別授業
◎数学の授業と課題
◎長期休みの課外
◎問題演習
◎面接指導
◎共通テスト演習（多数）
◎特編授業
◎添削指導
◎小論文・面接指導
◎学習室
◎過去問演習
・学力テスト
・志望大学別年間スケジュール
・英語の授業でのリスニング
・物理課外 数学添削
・4STEP
・入試前の生活習慣について
・土曜課外、放課後課外
・朝の自習室
・公民の課外授業
・夢は大きく志は高く持つこと
・毎日学校に来るように促してくれたこと
・予習の徹底

③《太高の指導で役立たなかったこと》
◎特になし（多数）
◎土曜課外（多数）
◎朝課外（多数）
◎レベルに合わない課題
・私文コースがなかったこと
・共テ演習
・受験で使わない教科の課題
・難易度の高い授業
・暗唱例文
・結局全て何らかの役に立っている

④《実際に大学受験を経験した感想を自由に書いてください》
◎緊張した（多数）
◎大変だった。疲れた（多数）
◎つらい、きつかった（多数）
◎楽しかった（7人）
○MARCHレベルは想像以上に難しい。対策しないと落ちます。
○辛いこともあったが、友達の支えで乗り越えられた
・共通テストが終わってからは短かった
・もっと早い時期から勉強を始めれば良かった
・人間として成長できた
・青チャートと英単語、理科のセミナーをしっかりやることが大事
・時間に余裕を持って行動する
・これまでサポートしてくれた親や友人に感謝している
・自分の思い通りにいかないことが多かった
・学力も当然だが精神力も重要なこと
・最後は体調管理が大事

⑤《後輩へ向けたメッセージ》
◎早く受験勉強を始める（多数）
◎今からやれ（多数）
◎頑張れ！（多数）
◎英語をやりましょう
◎受験はつらいよ
・日々の積み重ねが大事
・国数英を早いうちに固めておく
・定期テストを大切にすべき
・共通テストを舐めるな
・受験はただ勉強するだけでなく、入学後に何をしたいか、ビジョンを明確にするとよい
・早め早めにやっておく方が後で余裕ができる
・早いうちから赤本をやろう
・情報収集が大切です
・大学をしっかり調べる
・日東駒専、MARCHを舐めるな
・友達とのコミュニケーションを大切にしてほしい
・平常心が一番大事
・受験直前のケガと風邪に気をつける
・受験当日まで伸びると信じて勉強すること
・0と1の差、1と2の差は違う
・初志貫徹して頑張れ！
・勉強仲間を作ろう
・数学は文系でもやろうね
・基礎をしっかり固めてから応用に手をだす。焦らない
・志望校の傾向を調べる
・習慣化することが大切、毎日勉強しよう
・自分を信じて継続する事が大切
・自分に最大限有利な入試方法を考えるとよい！
・志望校は早く決めろ!!
・今の授業や、テストで得点出来るように頑張れば、志望大学の出題傾向と異なっていても、平気で、客の援助を引き出し目的を達成してしまう。このロボットを見ていると、目的を達成するために必要なのは「強さ」だけではないのだな、「弱さ」の場合もあるのだなと気づかされる。赤ちゃんが泣いて訴えることでミルクをもらい、抱っこして散歩に連れ出してもらうのと同じで、「弱さ」をさらけ出すことで目的を果たす。結果として、弱いはずの存在が強い存在になるという不思議だが面白い逆転が起こっている。

高い目標に向かって、ひとり黙々と勉強することはとても重要だ。完全無欠の強さを追い求めて、高みを目指す姿は非常にクールだしかっこいい。個の能力を高める努力は絶対必要だし、正解の用意された問題を解くことで、先人たちがたどり着いた正解の出し方を学ぶことは、未知の課題に対して正解を出すヒントを与えてくれるだろう。ただ、忘れないでほしい。ひとりでやれることにはどうしても限界がある。ましてや、これからの時代は正解のない問いに立ち向かい、現時点では存在しない答えを導き出すことが求められている。ひとりで抱え込んだところでたかが知れている。どうしても他者との協働が必要となる。協働する際には、一生懸命取り組むのは当たり前として、お互いに「弱さ」をさらし「強さ」という支援を引き出し合う関係を築くことを意識してはどうだろうか。配膳ロボットの醸し出す「一生懸命だが何か足りない」感じが、他者からの支援を引き出し、この関係性が突破口となって接客にイノベーションが生まれたように、人と人同士でも同じような関係性から正解のない問いに対する答えが生まれるのではないだろうかと期待してしまう。

令和6年度が始まりました。「文武両道」を実践する中で出会う課題を他者との協働によって逞しく克服していく太田高校生の姿を応援したいと思います。何があっても大丈夫。Mrs. Green Apple の歌声が聞こえてきました。

"que será, será
（ケセラセラ）～♪"

"que será, será"

進路指導部　新井　悟

ファミリーレストランに行くと配膳ロボットが、軽快な音楽とともに注文の品を届けてくれる場面に出会うことが多くなった。厨房と客席をせっせと行ったり来たりしている。食事を運んでくると、テーブルの脇にちょこんと立って、客に手を伸ばして注文の品を自ら取るよう促す。「一生懸命だけど何か足りない」感じが何とも言えず、思わず配膳を手伝ってしまう。このロボットの在り方は、レストランの接客においてイノベーションを起こした。これまではレストランでは、客は一方的にサービスを受け取る側に立っており、配膳がすむまで手を出すことなくじっと待っていた。配膳ロボットの登場で「客も手伝えばいいんだ」と意識が変わり、外食に「手伝う」という一種のエンタメ性が加わった。

この配膳ロボットは、自分だけでは皿をテーブルに置けないという「どこか足りない」姿を見せることで、客の援助を引き出し目的を達成してしまう。このロボットを見ていると、目的を達成するために必要なのは「強さ」だけではないのだな、「弱さ」の場合もあるのだなと気づかされる。赤ちゃんが泣いて訴えることでミルクをもらい、抱っこして散歩に連れ出してもらうのと同じで、「弱さ」をさらけ出すことで目的を果たす。結果として、弱いはずの存在が強い存在になるという不思議だが面白い逆転が起こっている。

高い目標に向かって、ひとり黙々と勉強することはとても重要だ。完全無欠の強さを追い求めて、高みを目指す姿は非常にクールだしかっこいい。個の能力を高める努力は絶対必要だし、正解の用意された問題を解くことで、先人たちがたどり着いた正解の出し方を学ぶことは、未知の課題に対して正解を出すヒントを与えてくれるだろう。ただ、忘れないでほしい。ひとりでやれることにはどうしても限界がある。ましてや、これからの時代は正解のない問いに立ち向かい、現時点では存在しない答えを導き出すことが求められている。ひとりで抱え込んだところでたかが知れている。どうしても他者との協働が必要となる。協働する際には、一生懸命取り組むのは当たり前として、お互いに「弱さ」をさらし「強さ」という支援を引き出し合う関係を築くことを意識してはどうだろうか。配膳ロボットの醸し出す「一生懸命だが何か足りない」感じが、他者からの支援を引き出し、この関係性が突破口となって接客にイノベーションが生まれたように、人と人同士でも同じような関係性から正解のない問いに対する答えが生まれるのではないだろうかと期待してしまう。

令和6年度が始まりました。「文武両道」を実践する中で出会う課題を他者との協働によって逞しく克服していく太田高校生の姿を応援したいと思います。何があっても大丈夫。Mrs. Green Apple の歌声が聞こえてきました。

"que será, será
（ケセラセラ）～♪"

3分の壁

三学年主任　栗原俊夫

安藤百福という人物をご存じだろうかと問えば、「チキンラーメンの生みの親」という人もあれば、「カップヌードルの開発者」と答える人もいるであろう。では、どちらが正解なのかといえば、どちらも正解である。つまり安藤百福はチキンラーメンの生みの親であり、カップヌードルの開発者なのである。

その経緯を少しひも解く。戦後の食糧難を嫌というほど肌で感じていた安藤は、四十七才の時、理事長をしていた「大阪華銀」という信用組合が倒産したことの責任をとって無一文になった。そのことをきっかけにチキンラーメンの開発に勤しむこととなる。そこには「人の役に立つことはないか」「誰もやっていない新しいことをやりたい」というチャレンジ精神があった。

さらにその精神はカップラーメンの開発にも繋がっていく。カップにお湯を注ぐという今までにない調理方法は当時一般の人には受け入れ難いものであった。それを安藤は自分の足で消費者の声を聴き、どうすればニーズに合うのかを探っていく。そうした行動は自らの運命を切り開く。当時国民がテレビに釘付けとなった「あさま山荘事件」の中で、待機する警官隊のカップヌードルを食べているところがテレビに流れたことによって、爆発的なヒット商品となったのである。チャレンジしなければ得られない結果である。

さて、受験勉強をしているとふと、「社会に出て使わないことをなぜ勉強しなくてはいけないのか」と疑心暗鬼に陥る瞬間がある。さらには三教科三科目で受験できる大学もあるのに「どうして六教科八科目も勉強しなくてはいけないのか」と悪魔のささやきが聞こえてくることがある。しかしそうやって科目を減らした先に待っている未来とはいかなるものであろうか。先にも書いたが安藤は「大阪華銀」倒産時にこんなことを言っている「失ったのは財産だけ。その分経験が血や肉になって身についた」と。経験に無駄がないように、勉強にも無駄がない。勉強を無駄だと考える心こそが無駄であり、そう考える時間が無駄なのだ。そんな人間に運命が微笑むことはない。

安藤は「一人の役に立つことはないか」という考えが常にあったからだろう。それは受験勉強にも言えることである。受験は「自分のためのもの」である。しかしそれと同時に「誰かのためのもの」でもある。その「誰か」がいるから受験勉強を乗り越えられるし、人は「誰か」の何気ない一言に、救われるのである。

私がもし安藤に会えるとしたら言いたいことが一つある。「カップラーメン、2分30秒で食べるのがベストだ」と。

なくらい学力がつく
・後になって一気にやろうとしても出来ない（実体験）
・苦手な科目も頑張って覚える
・緊張し過ぎるな、死ぬわけじゃない
・共テ利用は出しておいた方がいい
・基礎を固める事が1番大事
・学習環境が重要
・覚悟しといてね
・英検は取っとけ
・スマホにのめり込むな
・早め早めの対策が大事です

⑥《保護者へ感謝していること》
◎毎日のご飯やお弁当を毎日作ってくれたこと（多数）
◎3年間の送迎（塾・学校等）（多数）
◎精神面、生活面で支えてくれたこと
◎体調管理に気をつけてくれたこと
◎金銭的支援（多数）
◎自分のやりたいようにやらせてもらえたこと
◎塾に通わせてくれたこと
・相談相手になってくれたこと
・不合格でも優しく接してくれたこと
・ちょうどよい距離感でいてくれたこと
・いつも励ましてくれたこと
・考えを否定しないでサポートしてくれたこと
・体調に気を遣ってくれたこと
・遅く帰ってきても夕飯を作ってくれたこと
・日々の声かけ
・産んでくれたこと
・どんな成績でも、すごいと褒めてくれたこと
・あまり口出ししてこなかったこと
・自分のやりたいことを認めてくれて、サポートもたくさんしてくれた
・自分の勉強がうまくいかないときにいつも励ましてくれたこと
・家庭学習時に静かにするように気を遣ってくれたこと
・育ててくれたこと
・ホテルの予約など試験以外の手伝い
・陰ながら応援してくれたこと
・快適な学習環境を整えてくれたこと
・言葉では表現できない
・私立でも許してくれたこと
・勉強に一切口出しをしなかったこと

⑦《保護者に対して「ちょっと嫌だったなあ」と感じたこと》
◎特になし（多数）
◎うるさい
◎「勉強しなさい」と言うこと
◎プレッシャーをかけてくる（多数）
◎過保護
◎口出しが多かったこと
○全くなく、感謝しています
・大学の偏差値で判断するところ
・成績について言われること
・受験間際に気分が落ち込むことはいわないでほしかった
・兄弟と比較されたこと
・過剰な心配
・たまにうるさい
・どうせ落ちていると言われること
・リビングでTVを見ていた
・金銭的な不安をさせること
・国公立を強制してくる
・試験に落ちたときのことをきいてくる
・受験について理解がなかった
・一生懸命やったつもりなのに、プレッシャーをかけてくる
・受験の情報に疎い
・親目線で進めたい進路にバイアスをかけてくる
・受験制度の説明を何度もさせること
・第二志望の合格がわかり、第一志望の発表を待つ段階で、第二志望の大学でいいのでは？と何度も聞かれたこと
・部屋によく入ってくること
・出願先をしきりに聞く
・励ましの言葉が逆に自分を緊張させた